

# NEW CROWN 授業実践事例

BOOK 3 LESSON 8 授業例②

## 指導計画表

(全6時間)

時間	学習内容・主な活動
1	■とびら Q&A ・ 本課の導入 ・ オーラルイントロダクション ■GET (Part1) ・ 疑問詞+不定詞の導入及び練習
2	・ 前時の復習 ・ 語句・表現の導入 ・ 本文のオーラルイントロダクション ・ 本文の音読及び内容理解 ・ Practice
3	■USE Read ・ 音読練習 ・ 内容理解 ・ In-Reading ・ Post-Reading
4	■Write ■まとめ ・ 文法の要点 ■We' re Talking
5	・ 自己表現活動
6	・ 自己表現活動 ・ 発表

## 実践例

### 1. 3年間のまとめ

#### 4 技能を総合的に育成するための活動

##### ～3年間の集大成を目指して～

本課で3年間の学習が終了する。学習指導要領が改訂され、英語科では内容について大きな変化はほとんどなかった。しかし、年間授業時数が各学年105時間から140時間となり、言語活動の充実を通じて言語材料の定着を図るとともにコミュニケーション能力の一層の充実を目指す必要がある。特に、「読むこと」については「話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりすることなどができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえること」、「書くこと」については「語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと」「身近な場面における出来事や体験したことなどについて、自分の考えや気持ちなどを書くこと」「自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと」が特に求められているため、本課の自己表現活動において達成できたかを見取り指導することが重要である。

第1時間目はとびらを活用しながら introduction で指導者が「自分にとって英語とは(English for Me)」について話す。2年間、英語を学んできたがどうだったのか、コミュニケーションツールとして使われているようになったのか、を問うことが必要である。指導者の introduction が終わったら生徒と interaction, Q&A を行う。GET では、Drill を用いながら how to～の使い方の練習を行う。もし、この時間に ALT が勤務日であれば、例えば最寄りの駅までの行き方やお箸の使い方等を ALT が尋ね、生徒が答えるという形式で練習をすると Authentic さが増し、練習をする必然性が高まる。また、時間があれば98ページの疑問詞+to+動詞の原形を用いて練習を行えば、語句の使用幅が広がり6,7時間目に行く自己表現活動に有用である。

第2時間目は前時の review を行った後、語句・表現の導入を行う。以前であれば、フラッシュカー

ドやワードカードを用いて単語や熟語の練習をしていることもあったと思うが、情報機器が普及している現在では、パワーポイント等を作成して使用しておく、教室で座っているどの位置からも見やすく、視覚的興味も喚起され学習意欲が増す。第2時間目から第3時間目にかけての Reading については言うまでもないが、Model reading→Classroom reading→Group reading→Pair reading→Individual reading→Shadowing→look up and read というように集団から個別に練習を行っていく。本ページは登場人物が2人の2往復という短い会話であるが、気持ちを込めて会話をすることが好ましい。内容理解については、introduction を通しながら理解させていくと、学習指導要領に書かれている「外国語を通じて」という教科に特有な方法によって目標の実現が図られる。

<Slow learner から Advanced student に対する

#### Reading 指導>

習熟度別学習を行っていない限り、各学級の生徒は学習の定着度に差がある。それぞれの生徒が自分の定着度に応じた reading を行うためには、指導者が以下のような自作プリントを作成し、練習を行う。以下に示すのは第2時間目の例である。

#### Step 1

<p>Kumi : How did you like our <sup>ジュニア</sup> junior high school?</p> <p>Raj : When I arrived, I didn't know what to do at all.</p> <p>Kumi : But now you know how to speak Japanese.</p> <p>Raj : Yes. And I have many happy memories <sup>メモリーズ</sup> of our class.</p> <p>Kumi : I'm glad to hear that.</p>
---

指導者が生徒の定着度に依りて予め読めないであろうと予想される箇所を読み仮名を振っておく、あるいは生徒が自分で読み仮名を振ってもよいものとしてプリントを作成する。

Step 2

Kumi : How did you like our junior high school?  
 Raj : When I arrived, I didn't know what to do at all.  
 Kumi : But now you know how to speak Japanese.  
 Raj : Yes. And I have many happy memories of our class.  
 Kumi : I'm glad to hear that.

読み仮名を一切付けない、教科書の本文と同じプリントを用意し、このプリントで読めるようにする。

Step 3

Kumi : How did you like our junior high school?  
 Raj : When I arrived, I didn't know ( ) ( ) do at all.  
 Kumi : But now you know ( ) ( ) speak Japanese.  
 Raj : Yes. And I have many happy memories of our class.  
 Kumi : I'm glad to hear that.

Key word や内容理解の上で重要な単語等を blank にしておき、慣れてきたら blank の箇所を増やしていく。示したものについて4箇所が blank となっているが、最終的には、それぞれの sentence 1 word を残したまま読めるように、数枚のプリントを用意しておく。もし、学級内でできるようであれば、黒板に全文を書いておいて指導者が reading を繰り返す毎に単語を消していく、あるいは、先述したようにパワーポイントを用いて予め作成しておく、教室内での指導のための準備時間が多少省かれる。

Step 4

Kumi : 私たちの学校はどうだった？  
 Raj : こっちに来たときは、どうすればよいか全くわからなかったよ。  
 Kumi : でも今では、日本語の話し方がわかっているじゃない。  
 Raj : うん。クラスでも楽しい思い出がたくさんあるよ  
 Kumi : それは良かった。

最終プリントには、本文の日本語訳を書いたプリントを用意し、日本語訳を見ながら英文を言えるように練習を行う。その際、指導者は逐語訳にならないように日本語訳を書くことが大切である。

第4時間目の Write においては、本課の最終で行う自己表現活動の Pre として練習を行う。書く際には98ページのまとめを活用することが有用であるが、98ページについては第1時間目で既に学習済みであるので、確認をしながら97ページの Write を行う。この Write を行うにあたって、タイトルは何にするか、予め生徒に知らせておく。3年間の集大成であるので、例えば「中学校の思い出」でも良いし、作文活動を非常に苦手とする生徒が多い場合には97ページの「20歳の自分への手紙」でも良い。前者の場合には問いの順番に書いていくと最終的な自己表現活動の Pre には十分になりうる。更に99ページの We're Talking では、次時に行う発表を念頭に置いて、部分的に単語を置き換えて SKIT を行うと文章の幅が広がる。特に IDEA BOX を利用すると書きやすい。例えば以下のような文章が考えられる。

Ken : Emma, I'll really miss you.  
 Emma : Me, too. Don't forget to e-mail me.  
 Ken : Of, course. I'll write you every day.  
 Emma : I will too. Well, it's time to go.  
 Ken : Take care, Emma.  
 Emma : I will. Goodbye, Ken. It's been great.

赤字になっている箇所が変更した部分である。同じことを述べる場合であっても、様々な表現が考えられる。今まで学んだ、語彙、表現を用いて様々な言い方ができるようにしておくことが好ましい。また、時間があれば、作った Skit を用いて発表できれば、イメージとしても掴みやすく第5時間目から6時間目に行く自己表現活動に役立てることができる。

第5～6時間目は自己表現活動である。自己表現活動において、生徒が悩むのは「何を書いたらいいのか」ということが多い。国語科における作文活動においても同様であるが、書く内容が遂行されてい

る生徒にとっては悩みが比較的少ない。その一方、全く思いつかない生徒にとっては大変な作業である。第5～6時間目の授業構成として、本課では最終的に Presentation を行うことを伝える。そのため、第5時間目で英作文を仕上げなければならない。前述したとおり、これが3年間の総まとめであることを鑑みて、title を仮に「中学校の思い出」とする。作文活動が苦手な生徒への手立てとして、グループあるいはペアになりこの title で発表をした際に、（聞き手として）どんなことを尋ねてみたいか、例えば中学校3年間で一番嬉しかったことは何か、それはなぜか等を尋ねて答えておくと、作文を書く際のヒントになる。現行の学習指導要領では、「辞書の使い方に慣れ、活用できるようにすること」とあることから、最終段階として、分からない語、語法等については積極的に辞書を活用して完成することが望まれる。

第6時間目の Presentation では、「書いた」英作文を「読む」。この際には、単に読んだり、暗記をするのではなく英文を見ながら、表現を駆使するのであれば、聞いている classmate の表情を見ながら、「話す」ことができれば好ましい。また、「聞いている」classmate は presentation を終えた後に、質問を「尋ねて」みると1時間の中で4技能を用いることができ、最終段階としては望ましい構成として終えることができる。